



日中は暖かい日もありますが、朝晩は肌寒さを感じる日が多くなってきました。空気が乾燥し寒暖差も大きく体調を崩しやすい時期です。十分な栄養と睡眠をとり、感染対策をしっかりとって元気に楽しく過ごしましょう。

今回は子どもの事故 転倒について お話します

子どもの事故で最も多いのが転倒・転落です。子どもの転倒はつかまり立ちができるようになる生後10か月頃から起こり始め一人歩きを始める1歳でピークになります。子どもは全身に対して頭が大きく重心が高いため転倒しやすく、年齢が低いほど頭をけがしやすいです。子どもは思わぬ行動をとります。事故の予防と事故の被害を最小限にするために万全の対策をとりましょう。

どうやって予防する？



大人用ベッドやソファからの転落

子どもは寝ている間も寝返りをしたり動き回ったりしてベッドから転落しけがをすることがあります。2歳になるまではできるだけ大人用ベッドは使わないようにしましょう。またベビーベッドを使用する際は柵は必ず持ち上げましょう。

椅子やテーブルからの転落

椅子から立ち上がりたり椅子で遊ばせたりしないようにしましょう。

階段からの転落

ハイハイをする頃から階段からの転落が起きるので階段には防止柵を取り付けましょう。

窓やベランダからの転落

窓に補助錠やストッパーをつけて大きくあかないようにしたり、踏み台になりそうなものをベランダや窓の近くにおかないようにしましょう。またベッドやイス、ソファなどの上で遊ばせないようにしましょう。

自転車・ベビーカーからの転落

自転車ではヘルメットを必ず着用しましょう。子どもを乗せたまま自転車やベビーカーから離れないようにしましょう。

子どもが転んで頭を打ったり、ぶつけた時の対処法は？



たんこぶができた場合

たんこぶができているところは冷やすことで腫れを抑えることができます。ただ冷やすことを嫌がるお子さんもいますので、その場合は無理に冷やす必要はないでしょう。ただし、こぶが非常に大きい（3センチ以上）場合や急激に大きくなっていく場合は骨折の可能性があるのですぐに病院を受診してください。

明らかに出血している場合

傷口が出血している場合はガーゼや清潔なタオルで出血している場所を強く圧迫して止血をしてください。また傷口が砂や泥で汚れている場合にはできるだけ流水で洗って下さい。出血が止まらない場合は傷を縫う可能性がありますので必ず病院を受診してください。

頭を打った直後に泣き、その後 機嫌が普段と変わらなければそのまま様子をみましょう。症状は頭をうってすぐに出現することもあります。4～6時間後に症状が出現することもあります。頭を打った後最低24時間は注意深く観察が必要です。もし経過を見ている途中で具合が悪くなったらその時点ですぐに病院へ行きましょう。

子どもは元気になるとすぐにはしゃいでしまいがちですが頭を打った当日は安静に家の中で過ごすようにしましょう。

すぐに119番救急車を呼ぶ場合

- 意識がない
- 痙攣している
- だんだん反応が弱くなってきた
- 手足の動きがおかしい
- 呼吸がおかしい、息苦しそう
- 出血がとまらない

速やかに救急病院へ受診が必要な場合

- 頭をぶつけた直後短時間でも意識を失った
- 何回も吐く
- ぶつけた部分がへこんでいる
- いつもと様子がおかしい
- 1メートル以上の高さから落ちて頭をぶつけた



お問い合わせ

たのしーランド 080-2699-8999 (直通)

〒839-1233 久留米市田主丸町田主丸1001-2
介護老人保健施設サンライフ聖峰内1F「たのしーランド」